

# 会 議 録

第 1 6 回定例会

開会 令和5年12月20日

## 教育委員会会議録

1 開 会 令和5年12月20日 午前10時

2 閉 会 令和5年12月20日 午前11時10分

### 3 教育委員会出席者

教育長	榊 浩一
委員	島 隆寛
委員	三木 千佳子
委員	河野 暁
委員	岡本 弘子
委員	横田 賢二

### 4 教育長及び委員以外の出席者

副 教 育 長	阿部 淳子
教 育 次 長	中野 敏章
教 育 次 長	生田 雅和
教 職 員 課 長	西浦 利幸
学 校 教 育 課 長	酒井 吉彦
体 育 健 康 安 全 課 長	鳴川 幸恵
教 育 政 策 課 長	内海 はやと
教 育 政 策 課 副 課 長	櫻木 大介

[開 会]

教育長 定例会を開会する旨を告げる。

[会議録の承認]

教育長 配付されている会議録を承認して差し支えないかを各委員に諮る。

各委員 異議なし。

教育長 会議録を承認する旨を告げる。

[教育長報告]

副教育長 1 1 月定例県議会における質疑応答の概要について報告する。

〈質 疑〉

島委員：今後、総合教育会議において、学区制がテーマになるということだが、今回の県議会における質問もあり、取り上げるべきという流れに至ったのか。

教育長：学区制については、平成31年に有識者会議が設置され、現在進行形で議論を進めているところ。有識者会議の提言の中には、「城東高校が全県一区となってから3年経過した時期に、さらに議論を進めていくべき」という意見もあり、今がその時期に当たっている。また、知事からも、学区制については様々な意見を聞きながら進めるべきということで、時期が重なったものと認識している。県教委としては、意見を聞きながら議論を進めるべきと考えており、次回の総合教育会議が、そのうったてになると思っている。

河野委員：学区制の検討にあたっては、市町村の経緯も踏まえていく必要があるかと思う。

教育長：学区制は歴史が古く、当時の方々が知恵を絞り、子供たちや地域にとって最適なものとなるよう協議、判断をされてきたと認識している。それらの判断については尊重しながら、経緯を踏まえ、今後どうすべきかという検討を進めていく形になるかと思う。

[議 事]

《報告事項4 県立高等学校阿波おどり部のタイ派遣について》

教育長 報告を求める。

学校教育課長 内容等を報告する。

〈質 疑〉

島委員：旅費、交通費等は保護者負担なのか、それとも県から出るのか。

副教育長：県の商工労働観光部が企画をしており、そちらで予算を計上していただいている。

岡本委員：非常に面白い取組であり、かけがえのない体験となると思う。阿波踊りを披露するだけではなく、外国語や文化などに触れる教育の機会にしてほしい。

教育長：現地での学校間交流の具体的な内容はどのようなものか。

学校教育課長：タイ高専に行く方向で調整しており、内容は派遣の趣旨を踏まえ検討中である。

横田委員：徳島の文化を高校生が広めるというのは非常に良い試みだと思う。派遣から帰ってきたら、生徒たちの感想を教えてほしい。

学校教育課長：雰囲気や生活様式など、日本と大きく異なるので、生徒にとっては、街を歩くだけでも勉強になると思う。有意義な経験にしてほしいと考えている。

三木委員：行政が企画するものだけでなく、生徒自身が事前に目標を設定し、現地で実行するという機会があれば、刺激になると思う。自発的な取組も入れてあげてほしい。

教育長：交流内容について、生徒の意見を取り入れながら検討したい。

《報告事項1 1人1台端末について》

教育長 報告を求める。

教育政策課長 内容等を報告する。

〈質 疑〉

岡本委員：今回の事案によって、県立学校だけではなく、市町村立学校においてもタブレットが使いにくい状況にあると教職員や保護者の方も知ることとなった。この機会に、安かろう悪かろうではなく、しっかりとした環境整備を進めていただきたい。

教育政策課長：教育DX加速化委員会においてしっかり議論し、長く先を見越した調達等ができればと考えている。

《報告事項 2 教員の働き方改革の取組に関する「教育長メッセージ」について》

教育長 説明を求める。

教育政策課長 内容等を説明する。

〈質 疑〉

島委員：デジタル化は進んでいるものの、未だ手書きで提出する書類が結構ある。学校と保護者間の連絡手段のデジタル化を進めるために、紙提出のものがどのくらいあるのか、またデジタル化できるものは何があるかをピックアップしてみてもどうか。

教育政策課長：デジタル化を推進し、欠席連絡など少しずつ進んでいるが、委員ご指摘のとおり、未だ書類のものが多くある。こういった形が望ましいのか、学校と保護者の間で話し合いをもてるように、また保護者の方にご理解していただくためにも、本メッセージは意味があるものと考えている。今後も学校と保護者が協力して、子供たちにより良い教育ができるよう考えながら進めて参りたい。

岡本委員：メッセージは全県下の公立小中学校、県立学校に出されたのか。

教育政策課長：県教委として県立学校に発出させていただいた。市町村教委には、県立学校に対し本メッセージを通知したことを報告しており、活用していただければと考えている。

岡本委員：連絡手段のデジタル化について、小学校は少し違う形となるのではないかと考えている。例えば、小学校では欠席した場合の連絡というのは非常に大事なやりとりであり、電話でやりとりする中で、いろいろな情報が得られることもある。また、保護者の方にも学校側の気持ちも伝えられる機会である。「デジタル化に努めています。」という言葉があるが、欠席連絡にしても、丁寧なやりとりは教育の中では大事なものと考えており、そこに努力をしていくというのは、何か冷たい印象を受ける。

教育政策課長：欠席連絡に関しては、連絡を受けたら終わりというわけではなく、子供や家庭の個々の状況に応じ、各学校で工夫して対応いただいていると考えている。全てがデジタル化というわけではなく、働き方改革の観点で効率化できるところを推進し、フォローは別に対応いただくのが適切であると考えている。

生田教育次長：公立小中学校については、市町村教委が主体として働き方改革を推進していただく立場にある。県立学校に対し発出したメッセージを参考にし、市町村教委においても働き方改革を進めていただく趣旨をお伝

えしており、それぞれで活用していただけたらと考えている。

欠席連絡のデジタル化については、委員ご指摘のとおり、しっかり保護者とつながっていることは本当に大事なことであり、我々としても認識している。課長が申し上げたように、デジタル化が可能な部分とそうでないところをうまく組み合わせながら進めて参りたい。

三木委員：デジタル化ができるものは、進めていただければ親としてもありがたいと思う。一方、欠席の連絡は、親子間でのやりとりや電話をかけること自体が大きな役割になる場合もある。

教育政策課長：全てがデジタル化という訳ではなく、家庭とのつながりも重要である。うまく組み合わせ、ハイブリッドの形で働き方改革に努めて参りたい。

岡本委員：デジタル化が極端に進むと、不登校児童に「元気？」と一言伝えるのが非常に大事なところだと思っている教員は、連絡することがすごく悪いことのように感じるときもある。これを県教委が発信することで、市町村教委もそのまま出してしまう可能性がある。この「デジタル化に努めています」という言葉は、本当に大事な部分がそがれてしまっているような気がするため、伝え方が気になる。

教育長：今お話があった通り、先生方というのは子供を最優先に考え、子供たちが安心して元気に学校に来て教育を受け、また明日も元気に来るという姿を楽しみにしている。メッセージ2枚目の1番上にあるが、仕上がりの姿は、子供たちにより良い教育を受けてもらうこと。そのための働き方改革、先生方が子供たちと向き合う時間をしっかり確保するべきなんだということになっている。先生方が今まで子供と向き合う時間がなかなか取れなかったことが、もう少し工夫すれば、先生の負担が減り、時間を有効に活用できるものもあるのではないかと。そういう業務改善等をやってきて、できるところが少しずつ見えてきているが、まだ工夫ができるところがあるのだろうと考えている。デジタル化という話があったが、業務改善について、アナログとデジタルの分類が全てではないが、教員に負担をかけずに、子供たちも先生方も「これならいいね」というものを、学校と保護者と相談し、探っていく作業がすごく大事である。ここで「デジタル化に努めています」ということが、参考でお送りした各市町村教委に誤解を生じさせてしまうのではないかとのご意見も伺ったので、市町村の教育長会などの場において、こちらの意図をしっかりと伝えていく。子供たちにしっかり向き合ってもらいたいということを実現するための方略として、デジタル化が有効であるということはない。教育の質が上がり、労力も減る。その使い方を地域に応じて、学校と保護者でしっかり話し合ってもらいたいことが大事。先生方の働き方改革を一層進めて

いき、繰り返しとなるが、最後は「子供たちにより良い教育」を行うことにつなげて参りたい。

[非公開]

《報告事項3 服務上の措置の実施状況について》

《協議事項1 職員の処分について》

《報告事項5 令和5年度全国体力・運動能力調査、運動習慣等調査の結果について》

[閉会]

教育長 本日の議事が全て終了したので閉会する旨を告げる。

閉会 午前11時10分